

事業名称	茅野市文化芸術推進事業		
実行委員会	茅野市文化芸術推進事業実行委員会		
中核館	茅野市美術館		
	住所	〒391-0002 長野県茅野市塚原一丁目1番1号	
	TEL	0266-82-8222	FAX 0266-82-8223
	ホームページ	http://www.chinoshiminkan.jp	
構成団体	茅野市尖石縄文考古館、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市神長官守矢史料館、茅野市民館、茅野市公民館、茅野市市民活動センター、茅野市教育委員会こども部学校教育課、茅野市教育委員会生涯学習部生涯学習課、茅野市企画部地域戦略課、茅野市産業経済部商工課、茅野市産業経済部観光課、茅野市観光まちづくり推進室		
事業開始時点の課題分析	<p>茅野市の歴史は、古く縄文時代までさかのぼり、遺跡から国宝「縄文のビーナス」「仮面の女神」をはじめとする多くの遺物が発掘されている。市内には公立私立の多くのミュージアムが存在し、それぞれに活発な運営を行なっているが、連携に乏しく孤立した活動に陥りがちである。</p> <p>中核館である茅野市美術館は1980年に開館し、2005年に中心市街地のJR茅野駅東口に開館した文化複合施設・茅野市民館の中に移転した。茅野市美術館を含む茅野市民館には、使命とも言うべき5つの基本理念、①「市民一人ひとりが主人公になれる場」、②「幅広い人々の交流の場」、③「芸術から産業にいたるまでの地域文化の創造と情報の受発信」、④「茅野市の顔としての環境づくり」、⑤「中心市街地のまちづくり」がある。これらは、館を起点とした事象については多くが取り組まれているが、地域全体を巻き込むにはいたっていない。文化庁の補助により茅野市ミュージアム活性化事業を平成24年度から平成28年度までの5年間行なったが、ミュージアムのネットワークから、地域住民との関わりや、観光・産業などの他ジャンルとの連携など、さらに広がりをもたせ、地域住民と共に地域全体が文化資源をどのように活用していくかが課題である。</p>		
事業目的	<p>茅野市内には、考古、自然・人文、古文書、美術といった異なる館種のミュージアムが6館あり、運営方法は、茅野市の直営、指定管理者による運営、大学の附属館、企業運営など様々である。一方、茅野市は公民協働の「パートナーシップのまちづくり」が進められていることもあり、「市民」がボランティアやサポーターとして活動する館も多くある。本事業は、これまで、単独での活動や利用の促進を行なう傾向にあった各館が中核館を起点としながら、さらに観光関係団体や教育施設と連携し、地域の文化資源を有するミュージアムの魅力や役割を伝え、新たな利用の促進を行ない、地域との共働による人材育成を目指す。さらに、この人材育成事業により、ミュージアムが地域の文化の拠点として活性化し、ミュージアムが有する多面的な可能性を活かした事業を行なうこと、そして、地域住民がミュージアムと地域の共働のもと、多様な文化資源を活かしながら、様々な事柄を内外に発信できるような環境を目指すものである。</p>		

<p>事業概要</p>	<p>本事業は、①「ちのミュージアム・ピクニック」、②「地域をつむぐレクチャー（仮）」、③「アート×コミュニケーション茅野#4」、④「茅野市美術館を一緒にサポートしませんか×1」によって構成される。</p> <p>各活動の内容は、①各館と観光スポットで地域の文化資源を学ぶ、②様々な視点（美術館・歴史博物館、地域の文化資源、小・中・高等学校の連携、観光、まちづくり、産業など）により学び・地域の事例を知り・活動につなげる、③アートを通じて地域をみつめ発信する活動の実践、④美術館での市民ボランティアの活動の掘り下げ、である。</p> <p>これらの関係は「①の新規利用者を促進する流れ」「②様々な視点で学び、地域の活動につながる流れ」「③と④の地域のコミュニティの中で活動する人材の育成の流れ」を想定している。</p>
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 □イ ユニークベニューの促進 □ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 □エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 ■イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 ■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 □エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 □イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業は、①「ちのミュージアム・ピクニック」、②「ちのを編む みんなのサロン」、③「アート×コミュニケーション茅野#4「中学生がつくる美術展 ー自然と私たちー」、④「茅野市美術館を一緒にサポートしませんか+7」によって構成される。</p> <p>各活動の内容は、①各館と観光スポットで地域の文化資源を学ぶ、②様々な視点（美術館・歴史博物館、地域の文化資源、観光、まちづくり、産業など）により学び・地域の事例を知り・活動につなげる、③アートを通じて地域をみつめ発信する活動の実践、④美術館での市民ボランティアの活動の掘り下げである。これらの関係は「①の新規利用者を促進する流れ」「②様々な視点で学び、地域の活動につながる流れ」「③と④の地域のコミュニティの中で活動する人材の育成の流れ」を想定している。</p> <p>①&②→http://www.chinoshiminkan.jp/chino-museum/ ③→http://www.chinoshiminkan.jp/museum/2019/0301.html ④→http://www.chinoshiminkan.jp/museum/2019/0117.html</p> <p>①については、「自然と諏訪の信仰」と「縄文と八ヶ岳の恵み」をテーマとしたが、地元紙においては「縄文時代から続く狩猟文化に焦点を当てた話を聞いた」ことについて記事</p>

で取り上げられた。②については、地域の“宝物”を再発見する連続企画として数多くの地元紙で掲載があり、「郷土食とボランティア」をテーマにした回では「人とかかわりやコミュニティの大切さを実感した」と取り上げられた。③については、地元紙で「中学生が作品を選んだり、展示順を考えたりして「見せる・伝える」プロセスを体感する機会を設けた」と取り上げられた。参加した中学生は「普段は見るだけですが、少しのことで印象が変わるので、作品を飾るのは結構難しかった。自分の周りにある自然と、他の人が見ている自然の違いを感じてほしい」と話していた。④については、地元紙において「同講座は、多くの人が美術館や美術をより深く学ぶ得ると同時に、美術館の活動を体験することで鑑賞から一歩踏み出した美術館の楽しみを見つけよう」と取り上げられた。

本事業の目標は、新たな利用者の文化活動による各ミュージアムへの波及効果、さらにミュージアムと地域の中にある文化資源を知った上で、ミュージアムと地域とのネットワーク構築をふまえ、国内外に発信できる人材を育成することである。茅野市の人口は約55,000名であるが、約2.5%にあたる1,425名の参加者があり、目標の1%を超えることができた。また、約1割にあたる市内小中学生約5,000名へのチラシ配布、新聞へのチラシ折込、全戸配布の『広報ちの』への情報掲載、そして茅野駅改札口に隣接する東西通路に事業の情報看板を設置することで、地域住民および年間300万人に及ぶ観光客の参加を促す情報発信を行なうことができた。本事業の①から④までの流れによって、新たな利用者の文化活動による各ミュージアムへの波及効果、さらにミュージアムと地域の中にある文化資源を知った上で、ミュージアムと地域とのネットワークの必要性を学び、国内外へ発信できる人材の育成を一歩、進めることができた。

【事業実績】

1. ちのミュージアム・ピクニック (11月11日20人、24日21人、会場：各館、おすすめスポット)

「自然と諏訪の信仰」と「縄文と八ヶ岳の恵み」をテーマに、分散して位置するミュージアムと、地域の文化資源のスポットをバスで巡った。参加者からは、「観光とは違った形で、歴史や風土を知る機会となって良かった」という感想が多くあった。テーマのもとで、ミュージアムを含む地域の魅力を多角的に学び、体感することができた。

2. ちのを編む みんなのサロン (2月11日34人、3月9日36人、3月21日15人、会場：イリセン寒天工場、茅野市尖石縄文考古館、豊平地区コミュニティセンター)

全3回で「天然寒天」「縄文遺跡の発掘」「郷土料理とボランティア」を切り口に、地元の方々の取組みを直接うかがった。地域の文化資源を知り、また活かし方を学ぶ機会にもなった。特に茅野の「ボランティア」については、地域ごとの縦割りになってしまうので、ボランティア同士の連携の必要性が参加者から話された。茅野の魅力をもつてつなぐ事業とすることができた。

3. アート×コミュニケーション#4 「中学生がつくる美術展 -自然と私たち-」 (アウトリーチ12月12日、20日、21日、22日、1月17日、18日、24日、29日、2月6日、9日、14日、インリーチ2月25日、美術展3月1日～3月10日、ギャラリートーク3月2日、きてみて！ギャラリーツアー3月9日、対話による作品鑑賞会3月1日、4日、6日、7日 美術部生徒39人、美術展入場者987人、会場：茅野市内4中学校、茅野市美術館 企画展示室)

茅野市内4中学校の美術部生徒39名が参加。地元作家、美大生、美術館サポーター、学芸員が関わり、意見を交わしながら、展覧会づくりに取り組み、どのように鑑賞者に届けるかを検討。普段の創作を通じた表現に加え、様々な視点が交わる多彩なアプローチを体験し、展覧会づくりも一つの「表現」とし

て取り組み、人材育成に繋がる事業とすることができた。美術展の鑑賞者からは、中学生が地元の自然をみつめていることへの評価や、中学生の作品と、美大生、作家がコラボレーションして、互いにイメージの影響が感じられたとの感想があった。

4. 茅野市美術館を一緒にサポートしませんか+7 (9月3日37人、1月20日21人、26日19人、31日22人、2月2日19人、9日16人、17日31人、24日10人、25日11人、3月2日27人、会場：茅野市民館内、川崎市岡本太郎美術館、世田谷美術館、茅野市立湖東小学校)

館内での座学に加え、世田谷美術館でのボランティア活動の見学、さらに地元小学校での対話による作品鑑賞(地元作家と美術館収蔵作品を鑑賞、茅野市美術館サポーターと学芸員が案内役)で地元小学校(児童60人)の出張授業を行ない、その様子の公開と事後講座など、館外の実際の現場でも実施した。連続講座の受講者としては合計26人の参加者があった。他美術館や地域住民とも連携し、地域の子どもを対象とした取り組みでありながら、様々な立場の人々が交流し、学び合う機会とすることができた。受講者からは、実際の現場の声や、場に触れることができたことについての評価が高かった。茅野市の人口は約55,000人であり、その中で茅野市美術館では59人の市民サポーターが活動しているが、本事業を経て、新たに5人ものサポーターが加わり、大きな成果を得ることができた。